みなみたま

南多摩高校･第四高女同窓会
広報「みなみたま」第５号
2014 年 4 月 20 日発行
発　行　都立南多摩高校同窓会「あかね会」
発行者　石川 和昭
〒192-8562　東京都八王子市明神町　4-20-1
都立南多摩高校・都立南多摩中等教育学校内
電話 042(625)8325　http//www.akanekai.org

巻頭言

歌い継がれる母校の校歌

南多摩高校同窓会・あかね会会長　石川　和昭（昭和36年卒）

平成27年3月の閉校を控えた母校では、幕引きを担う高校3年生が中等教育学校生の良きモデルとなり後輩をリードし、中等教育学校では母校の校歌がそのまま継承され、折々の行事などで歌われていると、学校関係者から伺っています。

この校歌が歌われる以前には、昭和6年制定の第四高女のものがありますが、男女共学制の導入により歌詞が当時の状況にそぐわなくなったこともあり、翌昭和25年に校章と共に現在の校歌に改められました。以来65年の長きに渡り歌い継がれてきたその校歌が中等教育学校に継承されることは、卒業生にとって真に喜ばしいことです。在学中も卒業後も事あるごとに歌い親しんできたこの校歌は、中等教育学校生の学校生活の中でも、脈々と歌い継がれていくことでしょう。あかね会総会時はもとより常任委員会などの会合でも、母校の校歌が歌われます。校歌が歌えるのは同窓の証であり、私達の貴重な財産と言えます。また、高女の校歌についても、歌える者は少数派になってきてはいますが、母校の歴史を語るものとして大切にしたいものです。

あかね会員皆が「学びのともあゝ我等の友」や「華やぎて声あわす　われら若人」など、2つの校歌のその精神を共有してきた同士であることを再認識しつつ、母校支援に努め、同窓会としての活動を充実させていきたいと思います。引き続きあかね会活動へのご理解、ご協力をお願いいたします。

学校報告

平成２７年の南多摩高等学校閉校に向けて

南多摩高等学校　副校長　吉田 寿美

Ⅰ　はじめに

明治時代に、女性に高等教育をという横川楳子女史の熱い意志を引き継いだ「府立第四高等女学校」、その伝統を受け継いだ「都立南多摩高等学校」は、平成27（2015)年3月に閉校を迎えます。

現在、校門には2つの校名表示が並ぶ

「南多摩高等学校」は、“南高”、“ナンタマ”という愛称で地域の伝統校として、多くの卒業生をはじめとして地域の方々に支えられてきました。平成14年度「都立高校改革推進計画・新たな実施計画」に基づき、本校を母体校とする中高一貫教育校である「東京都立南多摩中等教育学校」が、平成22（2010)年４月に開校しました。高等学校は来年に閉校しますが、多くの卒業生が積み上げた歴史と伝統は、新しい「南多摩中等教育学校」に受け継がれていくものと確信しております。

そこで今回はこの紙面をお借りして、来年に迫った高等学校の閉校に向けて、現在、閉校準備委員会が中心となって取り組んでいる事柄や、閉校に向けての学校の様子をご報告いたします。

Ⅱ　閉校準備委員会

昨年4月に、閉校準備委員会を発足しました。委員会のメンバーは、校長、高等学校副校長、高等学校教務主任、高等学校2学年主任、同じく2学年担任(1名)、高等学校卒業生(同窓会「あかね会」の会員)である教員(2名)の計7名で、月に1回の定例会を開催し、閉校にまつわる様々な事柄について検討し、教職員、あかね会、PTAの方々に提案し、了承を得るという手順で進めています。(提案しご意見をいただいたものについては、また検討し、再提案しています。)

以下、現在、閉校に関して決まっている事柄を挙げてみます。

１．閉校記念式典

平成27年(2015)年3月13日(金)

午前11:30 開式　本校体育館

※同日の南多摩高等学校・第67回卒業式（午前9:30～11:00)後に実施

※来賓(あかね会の方々も含む)、高校3年生、中等4・5年生、中等1～3年生の代表生徒、高校3年生の保護者(希望者)

２．閉校記念誌の刊行

【体裁】 A4判120ページ(予定)、横書き

【内容】本校に関する写真、東京都教育長、教職員、PTA、同窓会、PTAOB会、各分掌、生徒、本校の沿革、教職員在籍一覧、過去の記念誌、PTA広報、あかね会広報、定時制等

３．閉校記念碑の設立

４．閉校記念品

卒業生、在校生、教職員、式典参加者、同窓会会員(希望者)

※現在、閉校記念品を何にするのかを検討しています。

５．校歌編曲

閉校記念式典で、「南多摩フィルハーモニー」の演奏に合わせて校歌を歌う予定です。

Ⅲ　同窓会からの支援への感謝

Ⅱで挙げた2～5のうち、閉校記念碑、校歌編曲については、同窓会から寄贈されることになっています。また、閉校記念誌、閉校記念品については、購入する方々からのお支払いを考えております。

閉校に向けてのあかね会、PTAからの支援を大変有難く思っております。

Ⅳ　南多摩高等学校から南多摩中等教育学校へ

今年度、同一の学び舎で、中等1～5年生、高校3年生が学校生活を送っています。後期課程に進級した中等4・5年生は、高校3年生と一緒に部活動も行っています。合唱祭、文化祭、体育祭の3大行事も6学年合同で行っています。もちろん、始業式、終業式といった式典も、合同で行っています。

体育館に掲げられた2校の校章

教職員に互いに兼務発令が出ており、教職員が一致協力して、中等教育学校の生徒、高等学校の生徒が共により良い学校生活が送れるよう、日々指導を行っています。

平成22年度の中等教育学校開校から、あかね会、PTA活動も連携して活動しています。昨年度から学校運営連絡協議会、防災教育推進委員会も合同で開催しています。まさに、チーム「南多摩」です。

Ⅴ　おわりに

現高校3年生は、最後の南多摩高等学校の生徒です。そのことを分かって南多摩高等学校を選択し入学した高校3年生の気持を大事にして、彼らが来年の3月に有終の美を飾れるよう、教職員一同で応援していきます。

学年末の2月21日（金）は昭和記念公園で、中等教育学校・高等学校合同のマラソン大会が開催されました。まだ、雪の残る昭和記念公園の「みんなの原っぱ」の周囲を、中等1・2年生男子と中等1・2・3年生女子は約4．1km、中等3年生男子と中等4年生、高校2年生女子は約6．4km、中等4年生、高校2年生男子は約8．2kmを走りました。（高校3年生は、大学受験の真っ最中でした。）晴天の下、生徒たちは自己ベストの更新を目指して走り続けました。5学年が合同でマラソン大会を実施するのは、南多摩だからこそです。学年が違う、距離が違うといった複雑な条件をクリアしてこそできる行事です。これからも、チーム「南多摩」で、教育活動を行って参ります。

最後になりましたが、日頃あかね会の方々から、温かいご支援を頂いていることに、教職員一同感謝しておりますことを記して、この文章を終わりにいたします。

コラム

“南多摩”　これまでの歴史、これからの歴史

東京都立南多摩高等学校長
東京都立南多摩中等教育学校長　押尾　勲

先日、市内の小学生から、横川女史の足跡を調査しに学校に来たいとの申し出がありました。しかし、予定した日は、あいにくの大雪で、訪問が取りやめになってしまいました。残念でした。それでも、東京府立第四高等女学校、東京都立南多摩高等校・南多摩中等教育学校の創立基盤を創られた女史に、現在の小学生が思いを馳せてくれたことに深いありがたみを感じています。

さて、八王子市明神町には、小学校１校と中学校１校があります。八王子市立第四小学校は、大正５年に開校しています。あと２年で100年となります。八王子市立第五中学校は、昭和22年に、南多摩高等学校内に併設されて開校しました。当時の本校第３代校長の岩崎源兵衛先生が初代校長を兼ねていらっしゃいます。

南多摩は、公立学校として今年で106年目です。八王子の教育史上重要な位置にあることが、学校の歴史からわかります。『八王子から世界で活躍する人物を輩出する』という卒業生の願いを学校は託されています。特筆すべきは、この２年間で、高校生と中等生合わせて７名が東京都の支援を受けて、アメリカとニュージーランドに留学します。その生徒たちから、高い志とチャレンジ精神の大切さを在校生たちは学んでもらいたいと思っています。南多摩の多くの生徒が、世界を視野にものごとを考えるように育ってほしいのです。

あと１年で学校のスタイルは変わりますが、南多摩の歴史は受け継がれ発展して行きます。これからもあかね会の皆さまのあたたかいご支援を心よりお願い申し上げます。

学校報告

頑張れ！　南多摩の“部活動”

2013 年度の活動状況

最近、母校「南多摩」の部活動の頑張りが目立ちます。2013年度、部活動は南多摩高校(以下高校)の2･3年に、南多摩中等教育学校(以下中等)の後期課程(4年)が加わり高校生として、中等の前期課程(1～3年)が中学生として活動しています。現在、『運動部』は、陸上競技、水泳、剣道(薙刀)、野球(硬式･軟式)、ソフトボール、バレーボール、卓球、硬式テニス、サッカー、バスケットボールがあります。『文化部』は、美術、科学、太鼓、イラストクリエイト、合唱、吹奏楽、南多摩フィルハーモニー、日本文化、茶道があります。

一昨年は、高2女子が「東日本女子駅伝」に東京都チームの代表として出場し、東京都を3位に押し上げる活躍をし、競技で走る様子がテレビでも放映されました。

運動部の実績

高校「陸上競技部」は、「東京都高校駅伝」男子の部(チーム7人)で2時間18分03の10位と健闘しました。これは都立高校ではトップの成績です。

陸上競技部

「東京都陸上競技新人戦」110mハードルでは、高2男子が自己新記録で4位入賞しました。また、中等「陸上競技部」が「東京都中学校総合体育大会陸上競技」の男子低学年100mリレーに出場し、5位に入賞しました。

高校「水泳部」は、「西東京大会」の200mメドレーリレーで、男子と女子がともに優勝しています。

水泳部

高校「硬式テニス部」は、「都立対抗戦」で高校女子が団体戦で5位に入賞しました。

その他、各運動部が「東京都大会」や地元「八王子大会」などで優秀な成績を残しています。

文化部の活躍

中等「合唱部」が「NHK全国学校音楽コンクール」に出場し、「東京都予選A」で金賞受賞、その後の本選で銀賞に輝きました。

今年３月で終了した高校「吹奏楽部」は、「東京都高等学校吹奏楽コンクール」のB1組で銀賞、「東京都高等学校アンサンブルコンテスト」の木管部門、打楽器部門で各銀賞に輝き有終の美を飾りました。

中等「南多摩フィルハーモニー」は、八王子市民祭などに出場しています。昨年12月末の「第20回全国高等学校オーケストラフェスタ」では、多摩代表に選出され、初めて「全国大会」に出場し、ドヴォルザーク「弦楽セレナーデ第5楽章」を演奏しました。

南多摩フィルハーモニー

あかね会が寄贈した「南多摩百年太鼓」は、中等「太鼓部」に受け継がれ活躍しています。「都庁前大江戸祭」や「八王子まつり」、「八王子いちょう祭」、「八王子大江戸舞祭」など地元のイベントでもお馴染みになりました。昨年は、八丈島での合宿も経験し、「全国高等学校文化連盟東京都中央大会郷土芸能部門」にも初出場を果たし、活躍の場を一層広げています。

太鼓部

その他、『文化部』の活動は、9月の文化祭「南魂祭」や春の中等「成果発表会」でもその成果を発表しています。ぜひ母校を訪れ激励をお願いします。

あかね会通信

平成25 (2013) 年度 あかね会の出来事

第101回『あかね会総会』八王子プラザホテルで開催

あかね会総会は、5月19日に八王子プラザホテルに68名が出席して開かれました。あと2年で閉校する南多摩高校の精神と伝統は南多摩中等教育学校に発展的に受け継がれ、同窓会も一体となって支援していくことを確認、また、最近の母校生徒の活躍の一端も紹介されました。

平成24年度の事業・決算・会計監査報告、平成25年度の事業計画・予算案を可決後、今年度の役員改正で新たに浜中賢司さん(昭和44年卒)が副会長に就任。長年、会に貢献した4名の退任者の表彰も行われました。今年度初めて平成卒の新常任委員が誕生しました。

講演会は、地域文化功労者として表彰されたモダンバレエの伊藤淳子さん（昭和27年卒）が、60年の舞踊人生を語る元気溢れる講演でした。

懇親会は、井上務さんと伊達めぐみさんの軽妙な司会で進められました。新会員代表の大学1年生2人は、司会のリクエストに応え、英語で対応するなど在校生の学力の高さを垣間見ることができました。また、司会を担当された歌手の伊達さんによる「ケヅメリクガメの歌」も披露されるなど、和やかな雰囲気で会員同士の親睦がはかられました。

山の涼しさを満喫した”高尾山薬王院”での納涼会

恒例のあかね会納涼会は、8月24日に35名が参加し、高尾山薬王院客殿で開催されました。

高尾山薬王院の大山隆玄貫主(昭和28年卒)、石川会長の挨拶の後、山で採れたものだけを食材とした味自慢の精進料理「高尾膳」をいただきながら、参加者全員から近況報告があり、同窓会への熱い想いが語られました。

最後に、客殿前で参加者全員の記念撮影をして解散しました。

文化祭『南魂祭(なんたまさい)』にあかね会のブース出展

第105回『南魂祭』は、9月7日～8日に開催されました。

あかね会のクイズコーナの様子

母校体育館では、迫力のある太鼓部の演奏や南多摩フィルハーモニー、吹奏楽部の演奏などに観客から大きな拍手が送られていました。また、太鼓、フィル、吹奏楽の3部合同コラボレーションによる演奏も行われました。

あかね会は、西館1階の視聴覚教室で同窓生30名余りが100点以上の作品を展示したほか、「あかね会クイズ」コーナーでは、中等生や未来の中等生を目指す外来の子どもたちが、難しいクイズに挑戦していました。また、部屋の一部では、隣会場のPTAが主催するミサンガ教室が開かれ、あかね会とPTAとの交流もはかられました。

翌日の8日は、八王子空襲から68年を経て、戦争を体験した昭和25年卒同窓生の女性4人による、叙事詩「母校が焼けた日」の朗読が行われ、八王子市広報の特集「戦争体験」に掲載された元小学校長の廣瀬智子さんや、舞踊家の伊藤淳子さんも加わり、戦争の悲惨さを語りました。

黒須隆一講師が母校で熱く語った『先輩に学ぶ』

昨年度の「先輩に学ぶ」は、10月23日母校の高校2年生全員を対象に行われ、黒須隆一前あかね会会長（昭和35年卒）が『挑戦！失敗を恐れず』というテーマで自分の歩んだ人生を振り返り、後輩たちに「挑戦」し続けることの大切さを伝えました。

黒須講師による講演の様子

講演の概要は、建設の仕事とモータースポーツに燃えた青春時代の話から始まりました。モータースポーツでは、1971年にマカオグランプリという国際レースで2位という輝かしい栄冠を手にし、その後専門誌に「20世紀に残るドライバー100人」として名前が載るほどの腕前でした。

その後、33歳で八王子市議として政治家人生をスタートし、都議会議員に挑戦しつづけ、2度の苦杯を舐めましたが、3度目でトップ当選を果たしました。しかし、この2度落選の苦節8年が自身を大きくしたと振り返りました。

さらに、2000年には八王子市長に立候補、現職を破って当選し、12年間、精力的に市政に取り組みました。市長自ら全職員と対話し、元気な挨拶を実践し、「コスト、スピード、危機意識」を念頭に、リーダーは、「決断・責任・ブレない」が大事であることを説き、講演を終えました。

2014年 新年会は“八王子エルシィ”で開催

2014年の新年会は、1月11日に八王子エルシィで開催されました。新年会は、井上務さんと大塚光代さんの司会でスタートし、初めに押尾勲名誉会長(校長)から、昨年初めて全国大会に出場した「南多摩フィル」、八丈島で合宿練習をし、東京都大会に初出場を果たした「太鼓部」の活躍など近況が報告されました。その後、山田京子さん、廣瀬智子さんによる図書館ボランティアの話や、糠信和代さんから『美味しいっていわれたい』というフランス料理本の出版に纏わる話などが披露されました。

山田京子さんと廣瀬智子さんの話

また、今年は初めてカラオケ競演が行われ、石川和昭会長からは日頃は聴くことができない演歌の熱唱もあり、終始和やかな雰囲気の新年会でした。

歴史発見

母校設立に貢献した２人の女性

「湧水万古の会＊」有志を代表して　井上　務（昭和 44 年卒）

母校の106年前を探る

都立南多摩高校の閉校が目前となりました。平成27年4月からは「都立南多摩中等教育学校」になります。

遡ること106年前(明治41年)にも閉校と開校がありました。そして今、平成の閉校、そして開校に私たちは出合うこととなりました。得がたい機会ですので「湧水万古の会」を中心に有志数名が集い、106年前の開校当時のことを「少し調べてみよう」と思い立ちました。

しかし、昭和20年8月2日の八王子空襲で母校は焼失し、多くの貴重な資料が失われていますので、文書が残っていない部分は口承・伝聞も含めて資料を集めたいと考えました。とはいえ、106年も昔のこと、「3日前の昼食のおかずは何であったか」と問われてもすぐには思い出せないのに、歴史の専門家でもない者が106年前を調べるなどは、「あまりにも無謀では」と意気消沈したこともありましたが、助っ人数名を得たことで開校当時に関するいくばくかの新知見を得ることができました。ここに記しておきたいと思い至った次第です。

同窓の皆さまには拙文をご一読頂き、感想や更なる情報、ご叱責を頂戴し、開校当時のいろいろをさらに少しずつ明らかにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、伝聞によれば母校が開校する前、そこは桑畑だったそうです。その桑畑がどのような経緯で学び舎となったのかをいろいろ調べてみました。

校地はどのように確保されたのか

当時、三多摩地域の優秀な男子は府立二中(現立川高校)へとの流れがあったようですが、一方では優秀な女子を受け入れる学校が望まれていました。

駅に近いまとまった土地が検討されました。すると願ってもないような土地が見つかったのです。現在のＪＲ八王子駅とは位置が少し違いますが、駅至近に6，581坪30合というひとまとまりの広大な土地です。

そのような中で見つかった土地の所有者は、新藤ナツ(明治2年・1869年生)。女子教育の歴史をスタートさせるために「町のお役に立つならば」と一括無償提供の申し出がなされました。

この新藤家、天正年間(1590年頃)に甲州より八王子に移り住み、八王子千人同心組頭を代々勤めていました。

新藤ナツからの無償提供の申し出ではありましたが、八王子町の意向があり廉価で売却されることとなりました。当時の土地価格は１坪が８銭４厘でしたが、実際の売却価格は１坪が１銭６厘、無償提供に近いと私たちは考えました。当時の土地に関する概念は現在とは相当違っていたようですが、新藤ナツに学校開設への深い理解と熱い思いがあったからこそ広大な土地が一括提供されたのだと確信いたします。

実は土地を提供された新藤ナツの子および夫の類縁者は横川楳子(嘉永6年・1853年生)が開園した私立八王子幼稚園に入園しており、当然のことながら横川楳子と新藤ナツとは旧知の間柄であり、校地について直接話し合ったと伝えられております。このような背景があり、当時は桑畑であった所に母校が開校されることになったのです。そのように楳子とは親しい間柄にあった新藤ナツの娘ツヤ(明治29年生)は府立第四高等女学校３回生、本科を卒業。ナツの孫である富子・陽子も都立南多摩高校卒であることを付記しておきます。

横川楳子の教育事業を未来へ確実に具体的に継承するためには欠かすことができなかった広大な土地。その土地を提供した新藤ナツ。そして私立八王子女学校の創立者としての横川楳子。楳子とナツ、その両者が相俟って私達が青春時代を過ごした母校が誕生したのです。

横川楳子創立の私立八王子女学校校舎（明治40年代・天神町）

横山町に列女あり

さて、歴史は英語でHISTORY、これをHIS STORYと分解した方がおりましたが、我が母校は横川楳子、新藤ナツ両女史によるHER STORYからスタートしたということです。昭和24年に男女共学となるまで女学校としての長い歴史を有してきた母校に相応しいスタートであったと思います。

ここで新藤ナツにまつわるチョット面白いHER STORYを入手いたしましたので紹介いたします。ナツは大正期に浅川の暁橋架橋に際し、女性だからと寄付金が減額されたことに厳重抗議、男性と同額の寄付をしたそうで、「横山町に列女あり」といわれたエピソードが伝えられております。HER STORYの一端を垣間見た思いとなりました。

明治40年11月より校舎の建設が始まり、翌41年4月に

本館西部の南北に延びた校舎が完成しました。初代・長尾松三郎校長が府立第三高等女学校(現駒場高校)より就任して、5月11日に府立第四高等女学校が開校、6月に校舎すべてが落成しました。横川楳子は八王子女学校の在校生徒全員を府立第四高女に移籍させ、土地を除いた設備などすべてを東京府に寄付して教育の第一線から退きました。

新築された府立第四高等女学校の校舎（明治末・明神町）

資料に誤りを見つける

さて、横川楳子が創立した私立八王子女学校(八王子では最も古いといわれる幼稚園も併設)は、明治24年(1891年)に本立寺住職・及川真能より上野町4番地(現天神町)に250坪の土地を借り受け校舎を建設、翌年11月に開校されました。その横川楳子創立の私立八王子女学校を揺籃としつつ、母校は現在の明神町に新設されました。楳子創立の私立八王子女学校は上野町、我が母校は明神町にそれぞれ新設されたということを改めてここに確認をしておきたいと思います。それは、このあたりの経緯を記した資料の中に、本立寺の寺社所有地にあった八王子女学校が、そのまま府立第四高等女学校になったかのような記述がみられるからです。

府立第四高等女学校と旧私立八王子女学校の所在地(大正10年)

例えば『年表に見る八王子の近代史』(昭和60年発行 かたくら書店刊)の明治41年の項には、「5月　府立第四高等女学校が開校（校地は横川楳子が私立女学校の敷地を寄附したもの)。東京府青山師範学校第一種講習所(小学校教員養成機関)が府立第四高等女学校校内に併置」とあります。

同様に「三多摩近代百年史年表《復刻版》」(多摩中央信用金庫発行　昭和49年刊)には、「私立八王子女学校が府立第四高等女学校となる」とあります。

これは、横川楳子創立の学校校舎は本立寺の寺社所有地に残され、そのままの状態で青山師範学校第一種講習所(その後八王子町立図書館)へとその姿を変えたのであって、明神町に新設された府立第四高等女学校校舎とは全く別のものであることの認識がないまま、誤って記述されたと考えるしかありません。ここにその誤りを指摘しておきます。

私立八王子女学校が描かれた地図(明治39年)

最近はインターネットで手軽にいろいろな情報を入手することができます。ちなみに「横川楳子」とキーワードを入力して検索すれば、沢山の情報が居ながらにして得られます。しかし、曖昧で時には正しくない情報も多く、玉石混交の状態にあることが、今回「私たちが学んだ母校の土地が、どのような経緯で、誰によって提供されたのか」を調べる中で明らかになりました。

恩を忘れないために

母校は「都立南多摩中等教育学校」へと新しき歴史を刻み始めています。その百年後を想像しつつ、百年以上を経て今、往時を考えてみました。

「飲水思源」、水を飲む時、井戸を掘った人のことを思えとの言葉がありますが、今回焦点を当てた創立者「横川楳子」、そして校地提供の「新藤ナツ」のように、多くの先人の努力を忘れることがないようにしたいと強く感じました。

【写真提供】八王子市郷土資料館、新藤恵久
【資料】「明治時代の八王子の教育と横川楳子」「八王子の府立学校」(八王子市郷土資料館)、「写真でつづる母校の70年」(あかね会)、「南高75周年記念誌」「南高100周年記念誌『湧水万古』」(南多摩高校)
【地図】 陸地測量部刊行　大正10年測図　2万5千分の1地形図「八王子」
陸地測量部刊行　明治39年測図　2万分の1地形図「八王子」
＊「湧水万古の会」は、南多摩高校 100 周年事業記念誌編集委員会

会員通信

遠い遠い昔・・・

河津 泰子（昭和11年本科卒・昭和13年補習科卒）

今から83年前、現在の中野上町から毎日約1時間歩いて通学していました。その頃の府立第四高女は毎週月曜日の1時間目に校長先生の講堂訓話があり、必ず「精進聖軍の歌」を歌い、長時間姿勢を正し、勿論私語や居眠りなどは厳禁。訓話の内容も堅苦しい道徳的なものが多く、通学途中で若い男性とは目を合わせてはならず、口でもきこうものなら不良少女のレッテルを貼られるというような時代でした。

クラス編成は松・竹・梅の3クラスで、私は松組に5年間在籍し、卒業の頃新設された補習科に進み第1回の卒業生(29名)となりました。入学当時から体操の盛んな学校で、特に水泳の時間は厳しく、水の苦手な私は腰に紐付きベルトを巻かれ、先生がそれを引っ張って無理やり泳がされた苦しい思い出があります。

校門前にあった酒まんじゅう屋で先生に隠れて買い食いをしたり、朝注文してお昼に買えるパンが毎日楽しみで、お弁当を持参しない分鞄が軽くなって喜んだ思い出もあります。

95歳を迎えた現在、数十年続けている植物画を描きながら太極拳に通い、自分の身体に合った食事も作り元気な毎日を過ごしています。

絵：河津泰子「カワヅザクラ」

南高の想い出

武井 邦明（昭和49年卒）

南高を卒業して早40年。そろそろ人生の後半に入ろうとしています。

南高に入学した頃は、当時の元気だった日本の象徴ともいえる学生運動の名残も残っている時代でありました。校舎は改築される前のもので、校門は京王八王子駅からの道と甲州街道の交差点付近にあり、京王八王子駅は現在のような地下ではなく、電車の往来も見ることができました。

当時の都立高校は私服だったので、夏などはジーパンにTシャツで通っていました。勉学はほどほどにでも、サッカーはがむしゃらに励みました。午後の授業などは一番後ろの席でボール磨きとスパイク磨きが日課でした。練習は今とは違い根性主義、給水などは決して許してもらえず、もしも飲んだことが分かった時は連帯責任として校庭10周でした。プールは飛び込み台もある水深が5m位の深いプールでした。夏の練習後は誰もいないプールに皆で飛び込んで汗を流したものです。（今では許されませんが…）

当時流行りの喫茶店に「バーゼル」、「ピッコロ」、「朋松」、「チャンネルワン」、「ねずみのこと」などがありました。今でも健在の「ねずみのこと」には数年前に行きました。少し辛いカレーとコーヒー。何もかもがあの当時のままでとても懐かしかったです。

東京オリンピック

休波 博子（昭和42年卒）

昨秋、自宅近くの味の素スタジアムで国体の開会式、閉会式、陸上競技等が行われました。陸上競技は自由に入場できるというので友人と決勝戦を見に行きました。桐生選手が出場とあって平日にもかかわらず6,000人の入場者だったそうです。とは言っても広大なスタジアム、桐生選手を目の前で見ることができました。

初めて陸上競技を見ましたが、砲丸投げ、円盤投げ、走り幅跳び、障害物競争、どの選手も県の代表として観客の応援を背に精一杯頑張っている姿に感動しました。

昭和39年の東京オリンピックの時は、スタジアム前がマラソン折り返し地点でした。当時高校1年生でアベベ選手を見ました。ついこのあいだのような気がしますが、もう50年も前のことです。

2020年の東京オリンピックではマラソンは都心で行われるそうで少し残念です。50年もあっという間でしたから、6年後はもうすぐです。

ただ過ぎに過ぐるもの。帆かけたる舟。
人の齢。春・夏・秋・冬。

―枕草子　第 242 段―

南多摩高校・あかね会に感謝

演歌歌手　伊達 めぐみ(平成3年卒)

都立南多摩高校を卒業して23年。演歌歌手になり、とにかく無我夢中で歌って参りました。振り返れば、その活動を足元から支えてくれたのが、南多摩高校あかね会の皆様、そして先生方の存在です。在学中、生徒会やバンド活動など、1分1秒も無駄なく満喫出来たのも、自主性を高めてくれる先生方、そして同窓生のお陰です。本当に感謝しています。

卒業してからは、あかね会の総会で歌わせて頂いたのをきっかけに、あらゆるイベント場所をご紹介いただきました。テレビに出演したことも！とにかくあかね会の皆様の〝愛〟と〝力〟は凄いのだということを知りました。芸能界は〝生き馬の目を抜く世界〟、住み込み先で一人ぼっち、精神的に落ち込んでいた時、こっそり会いに来てくれたのも、あかね会の友。その後、事務所を辞めて八王子に戻って来て、これからどうして生きていけばいいのか、私の存在する意味があるのか、相談に乗ってくれたのも、あかね会の先輩方。

本当に感謝しかありません。これからは自分が、あかね会のためになれるよう頑張ります。今後とも、よろしくお願いいたします。

高校生時代を振り返ると

中村 晋也(昭和53年卒)

高校生時代を振り返ると、普通なら思い出話に花が咲くのでしょうが、友達も少なく行事の思い出もあまりありません。こういうと暗い性格の勉強一筋みたいに思われてしまうでしょうが、勉強もクラブ活動も熱心に打ち込んだ記憶はなく、自由気ままに過ごしておりました。

担任は体育の田中裕之先生で3年間お世話になり、ありがとうございました。京都への修学旅行のおり、いたずらが過ぎてきつく叱られたことも、今となれば楽しい思い出となっております。

私たちの頃はまだ私服通学で思い思いの服装で通学していました。体育祭の時、2年上の先輩(女性)が派手な刺しゅう入りの作業服(ツナギ)を着ていたのにはちょっとビックリしましたが、私服なのでそれも有りかな？と納得しました。

100周年の記念祝賀会の席では、卒業年次の同じ方とご一緒することは叶いませんでしたが、商工会や法人会、その他団体などでお見かけする方々が沢山いらっしゃったことに南高卒の重みを改めて感じることができ、その一員であることに恥じぬよう肝に命じました。

最後に、担任の田中裕之先生と同級生の山下均さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。(合掌)

母校の校舎から校庭を望む

人生をマラソンにたとえて

新入会員紹介　内田 朋哉（平成26年卒）

人生はよくマラソンに例えられます。山あり谷あり、1箇所にとどまることなく進み続けることから、そう言われるのでしょう。

私はつい最近、人生を、マラソンはマラソンでも駅伝に例えた文章を見かけました。駅伝を走るのはすべて自分で、駅伝区間の中継地点では、小学生や中学生といった次の自分が待っているという文章です。その文章を見て、私は、駅伝のほうがマラソンよりも、人生にしっくり当てはまるように思えました。高校生という区間を走ってきた私たちは、学問に関してはもちろん、協調性や自主性など様々な多くの事を学んできたはずです。

4月は、これらの3年間で学んできたものを大切にして卒業し、次の自分に襷を渡す時です。もう次の自分が見えてきていると思います。この3年間がそうであったように、楽しいことと同じくらい大変なこともあると思います。人によっては、今まで以上であるかもしれません。それでも今は、次の区間で見える景色を楽しみにしつつ、4月を迎えたいと思います。

当事者として生きること

八王子市郷土資料館学芸員 加藤 典子(平成18年卒)

「現在は歴史過程の一部である」との発想は、幕末期の学問を牽引した学者による新しい歴史認識であったといわれています。これにより、現在を生きる人間が、悠久の時の流れである歴史の中の当事者として存在することが認識されました。そして幕末の志士たちが当事者として日本の歴史の中に立った時、彼らは日本の危機を強く認識したのです。

新しい歴史認識は彼らに変革をもたらしました。自らが歴史の当事者であるならば、過去もまた同じ時の流れの中に存在することになります。したがって、過去は現在を示唆するものとして大きな指標となり、幕末期には歴史を学ぶ者が急増しました。また、過去・現在を把握することは新しい未来図を描くことにもつながったのです。

南高の教育目標に「当事者として世に立とう」というものがあります。目標は3つあったのですが、これだけはとても印象に残っています。当事者として生きるとはどのような意味なのか、当時の私はその答えを探して歴史学の中に求めました。幕末の志士がそうであったように、当事者たることは歴史の中に身を置くことであると理解したからです。私たちは過去を正しく認識しなければ現在の問題を把握することさえ出来ません。過去の出来事を知り、その反省のもとで未来を思考してこそ、当事者として生きるということにつながるのではないでしょうか。私たちは「今」を生きることに精一杯になりがちですが、時には視点を変えて、過去をふりかえり、未来に理想を描くという作業が必要なのかもしれません。

私は現在、学芸員という職に就いています。私の歴史学の原点は「戦争のない世の中をつくる」というものでした。過去を学びそれを未来に生かすことが歴史学であるならば、理想的な未来の実現も過去への正しい認識によって導かれることになります。また、正しい歴史認識の養成こそが学芸員の責務といえるでしょう。与えられたこの機会を存分に生かすことができるように当事者として向き合っていかなければならないと感じています。

八王子市郷土資料館

母校に赴任して

南多摩高校教諭　西海 健夫（昭和 52 年卒）

南多摩高校を卒業して35年。一昨年母校に赴任して、ちょうど２年になります。当時の時計台や木造校舎を懐かしく思い出します。

私が教員になりたいと思ったのは、当時の個性的な、時には厳しく時には優しい、そんな先生方に出会ったからです。「いずれは母校に勤めたい」という、35年来の夢が実現した訳で、充実した日々を過ごしています。

さて現在の南多摩は過渡期にあり、平成26年度の3年生が最後の”南高生”となります。彼らが卒業すると「南多摩中等教育学校」に生まれ変わります。”南高”は閉校になりますが、基本的には入試制度が変わるだけだと理解しています。「南多摩」の名称も、校歌も、そして生徒の自由で伸び伸びとした雰囲気も、そのまま受け継いでくれると思います。ちなみに、閉校に向けて、私は閉校委員を拝命しましたが、これも何かの縁であり、いわば”天命”と心得て、日々努力しています。あかね会の皆さまにもご協力いただいていますが、今後ともより一層のご支援をお願いします。

現在の南多摩は、12歳から18歳までの生徒が在籍している訳ですが、皆良く勉強し、また部活や学校行事にも熱心に取り組んでいます。中でも陸上競技部や吹奏楽部（南多摩フィルハーモニー）は部員も多く、東京都はおろか、関東、全国レベルの活躍をしています。

また、伝統行事である文化祭、体育祭、合唱祭は大いに盛り上がります。文化祭では「あかね会」のコーナーもあります。ぜひ一度ご覧になってください。

ところで、日々の教育活動にあたり、あかね会には物心両面の支援をいただいております。部活やフィールドワーク、また進路関係の書籍など、後輩達のために本当にありがとうございます。

私を含めて現在４名の卒業生が母校に勤務しています。教員として、そしてOB・OGとして、母校の発展のために今後も尽力していく覚悟です。

７０歳超が気力・体力・知力に挑戦

福島　雪男(昭和35年卒)

７０歳を超えての挑戦

今年2月２日は私の72歳の誕生日。70歳を超えてからの挑戦として昨年企画実施したドライブの旅についてお話します。

私は68歳まで入院したこともなく元気に過ごして来ましたが、69歳で白内障手術、前立腺の検査でそれぞれ3日程入院をしました。その後の静養を含め3ヶ月間は運動不足となり、体力も低下しました。体力回復のためスポーツジムで筋トレ、３ヶ月でほぼ元の体力に戻り、運動の重要性を実感しました。

そこで昨年は「70歳超の気力・体力・知力に挑戦」を思いつき、昔の同僚に提案したところ即4人が揃い、レンタカーによる「アメリカ合衆国横断ドライブの旅」を企画しました。

３週間で米国西端のサンフランシスコから東端のニューヨークまで、昔のルート66を経由して走り抜こうというものでした。皆、気力・体力は十分ありました。

当初は男4人で3週間も一緒にいて仲間割れしないか、途中病人が出て旅行が中断しないか、体力的に皆耐えられるのか、銃の国アメリカで賊に会ったらどうするか等々未経験の不安がありました。しかし、実施してみればそれら全てが払拭され、毎日が楽しい健康的な旅が出来たのです。

宿はサンフランシスコ、ヨセミテ、ニューヨークだけ事前に予約し、他は現地到着後モーテルを探すということを「尺取虫」のように繰り返しました。殆どの宿は確保できましたが一度だけその町が1週間お祭で満室、次の村まで100Kmを走らないと宿は無いとのこと。暗い夜道を只走りどうにか宿を確保できたのですが、アメリカのスケールの大きさを実感出来ました。

知力では、歴史、地理、英会話力、カーナビ、ドライブ技量等を4人で出し合って相互補完し、うまく整合したのです。

３週間のアメリカ合衆国横断ドライブの旅

2泊のサンフランシスコ観光後、そこから車で3時間半のヨセミテ国立公園へ、ここは私が一度は行ってみたいところでした。ここは奇岩と緑に囲まれた風光明媚な地で多くの観光客が訪れます。次の訪問先はデス・バレー(死の谷)といわれる瓦礫と塩の谷で、その名の通りの生物が生きられない厳しい土地でした。ラスベガスで一息入れて、次はグランドサークルといわれる地域で、国立公園が10箇所もある広大な地域です。

ザイオン、ブライスキャニオン、アーチーズ、コルテス、フォー・コーナーズ、モニュメントバレー、グランドキャニオンと毎日がトレッキングという大変な気力・体力の挑戦です。

それぞれの景色は私が経験したことのない奇岩の光景でした。殆どが赤茶けたレンガ色の広大な広がりです。その中でも特に感激したのはモニュメントバレーと呼ばれる奇岩の景色です。

昔の西部劇映画「幌馬車」などに出てくるジョンフォード・ポイント、ナバホ族が飛び出してくるような錯覚を覚えました。

モニュメントバレーへの道

グランドキャニオンはヘリコプターで50分間飛びましたが、以前経験した軽飛行機遊覧より迫力ある峡谷美を堪能できて、「長生きしてよかった」を実感しました。

次はアメリカの母なる道ルート66を訪ね、それに添って延々と真っ直ぐなハイウェーをひた走るというものでした。途中、昔のまま保存された町に立ち寄り往時の店で食事をしました。まるで昔にタイムスリップしたような気がしました。

ルート66の中間点（Midpoint,Texas）

ルート66はシカゴからロサンゼルスまでですが、アルバカーキー、セントルイス、シカゴ、デトロイト、ナイアガラ、ボストン、ニューヨークとひた走りました。3週間(21日間)で5，500マイル(8，800Km)を走破したのです。

その間、何のトラブルもなく仲間と和気藹々で毎日が極楽でした。最終日はニューヨークJFK空港で祝杯を挙げました。

最後の知力は使った金の精算方法で、レンタカー、ホテル、食事、買出し、ガソリン、ヘリコプター等々、全てクレジットカードで支払い、帰国後各自の支払いをEXCELに入力し、IT技術の活用で一発精算です。

仕上げは新宿で祝杯でした。「70歳超の気力・体力・知力」は完全に昇華されました。

同窓会活動と母校支援

◆あかね会活動にご参加ください

同窓会あかね会は、明治44年(1911年)3月の第1回47名の卒業(府立第四高等女学校)、同年11月の同窓会の発足に始まります。それ以降100余年が過ぎ、母校から約30,000名の卒業生が輩出され、今年3月の卒業生約160名は同窓会の104期生となります。

あかね会では、同窓会100年を迎えた翌年の平成24年(2012年)5月、同窓会「100周年記念総会・祝賀会」を会員120名の参加を得て開催しました。最年長は94歳の大先輩から、卒業直後の新会員までが一堂に会した場は、「南多摩」の長い歴史が体感できたひとコマでした。

あかね会活動の中心は、各卒業年次から選出される委員による常任委員会です。現在、約60名の委員が選出され、年4回の常任委員会で具体的な方針や計画を決め、5月第3日曜日の定例総会にはかり活動を進めています。右表は平成25年度の常任委員会の内容、会員の交流・親睦活動の主なものです。同窓会活動の1年は、4月の広報「みなみたま」の発行(在校生含め2万部)に始まり、5月の定時総会、8月の高尾山納涼会、9月の母校文化祭の参加、1月の新年会と、一般会員の参加を募りながら事業を実施し、その中で会員の交流・親睦活動を進めています。あなたも同期のお仲間をお誘いのうえ、気軽にご参加しませんか。お待ちしています。

⇒連絡先　庶務・溝口猛【携帯】090-6489-5939

平成25年度あかね会常任委員会

回	議　題
第1回 6/15	総会・懇親会の反省 高尾山納涼会 文化祭「南魂祭」への参加 「先輩に学ぶ」事業計画
第2回 8/24	母校文化祭「南魂祭」への参加 文化祭の従事委員 「先輩に学ぶ」実施案 「高尾山納涼会」開催
第3回 1/11	平成26年度広報計画 高校閉校行事への支援方針 「あかね会新年会」開催
第4回 3/15	平成26年度広報「みなみたま」案 平成25年度事業進捗状況 新年度事業計画案

◆母校へのあかね会支援活動

あかね会による母校支援の大きなものとして、和太鼓の寄贈があります。平成20年の「創立100周年記念事業」で、南多摩百年太鼓一式(8台)を寄贈しました。

当時の校長先生の熱い願いにより和太鼓が整い、八丈太鼓を得意とする先生のもとで、和太鼓は「100周年記念式典」で見事な演奏を披露し、華々しくデビューしました。平成23年春には、中等教育学校に「太鼓部」が創設され、年ごとに部員が増え活動が盛んになりました。様々なお祭りやイベントに呼ばれて演奏し、「ここに南多摩あり」の面目躍如です。一方、活動の活発化とともに、太鼓の不足、太鼓の傷みへの対応が課題となりました。

長胴太鼓の追加寄贈(平成 23.9 月)

平成23年9月には、部活動への昇格、益々の活動の活発化を願い、前回より一回り大きい長胴太鼓を寄贈しました。寄贈前の夏休みには、太鼓製作所の見学、太鼓の胴中に部員名などを記名する催しを行いました。一方、平成24年の秋には4年使用した長胴太鼓が痛み、皮の破れなどを補修する必要が生じました。平成25年春、乏しい母校予算だけでは修理が難しいとの要請を受け、あかね会が修理費の一部を補助し、長胴太鼓の新たな響きが生まれました。

物品類の寄贈は、洋楽器(5台)、電子ピアノ、多摩産材の机椅子(4セット)などもあります。

このほか、高校生の進路・部活動の支援、高校2年生が学ぶ「先輩に学ぶ」授業の講師派遣、高校卒業時の卒業証書入れ(フォルダー)の寄贈などを行っています。また、これまでスクールカウンセラー派遣、「湧志学堂」(直近卒業生が在校生の学習等を支援)、中等教育学校の野外活動へのお手伝いもしてきました。今後も、継続的に母校を支援してまいります。

◆常任委員に各年次から代表を

あかね会活動は、常任委員会を中心に進めていますが、次の年次は常任委員が不在の年次です。同期会、クラス会を開催している年次の幹事さんにお願いです。自薦・他薦を問いませんので、各年次から2名程度を常任委員にご推薦ください。会議などは年4回程度です。同窓会の組織強化、年次を越えた会員相互の交流・親睦を図るため、ぜひご協力をお願いします。ご連絡を心からお待ちしています。

不在年　昭和40～43　45　47　50　53～56　58～62
　　平成1　4　6～26

⇒連絡先　庶務・溝口猛【携帯】090-6489-5939

◆同期会・クラス会の情報をお寄せください

ホームページ「南多摩コミュニティ」が公開され、6年を迎えています。あかね会会員の相互交流や、母校への思いをつなぐものとして、広報委員会はホームページを有効に活用していただきたいと考えています。

これまで、下表のように同期会情報が掲載されました。「20年音信不通の級友が、阪神から連絡をくれました。『ホームページを見ました』と。同期の人の動静には皆敏感ですね」と記事投稿者から感謝されました。

卒業年	同期会等	時期
S48	バスケットボールOB会開催	2013年9月
S38	昭和38年卒3年8組同窓会	2013年6月
S41	音楽会『フェニーチェ コンサート』	2013年5月
S36	(3年6組)古希を祝う会	2012年9月
S61	横浜で会いませんか	2011年11月
S52	(3年6組)稲田先生クラス・クラス会	2011年8月
S45	昭和45年卒(22回)同窓会	2011年7月
S44	昭和44年ミニ・コムレイド	2011年2月

同期会・クラス会を予定する幹事の方々、ぜひホームページをご活用ください。同期会のご案内、実施報告など、情報をお寄せください。お待ちしています。

来年3月に『南高閉校を惜しみ「南多摩」の継承を祝う会(仮称)』を開催

●日時：平成27年3月13日（金） 午後4時より
●場所：京王プラザホテル八王子
●会費制（会費未定）

来年(2015年)3月13日(金)に南多摩高校閉校式典が母校体育館で行われます。

同日の午後４時より、あかね会主催で『南高閉校を惜しみ「南多摩」の継承を祝う会(仮称)』を開催します。

出席を希望される方は、「南多摩」の継承を祝う会出席希望と記載し、氏名、住所、連絡先電話、卒業年・組をご記入の上、平成26年12月10日までに官製はがきで下記にお申し込みください。

詳細については、あかね会から参加申込者に連絡します。

【申込先】〒192-8562 東京都八王子市明神町 4-20-1
南多摩高校内 あかね会宛

次号広報で“南高の思い出”の記事募集

来年の広報紙『みなみたま』第６号の会員通信欄に、皆さまから“南高の思い出”について投稿記事を募集します。封書または電子メールで下記にお送りください。

【送付先】〒192-8562 八王子市明神町 4-20-1
南多摩高校内 あかね会広報委員会宛
【メール】koho@akanekai.org

【原稿】 ①本文：500文字前後 ②タイトル(標題)
③記事に記載の氏名・卒業年度・組（職業記載は自由）
④ファイル形式：テキスト、MS Word 又は手書き
⑤写真・イラスト等は１点
⑥締切：2014年12月10日
⑦その他（連絡先を明記）：住所、電話、メールアドレス

高尾山納涼会（8月下旬予定）の参加者募集

8月下旬に、高尾山薬王院客殿内で恒例の納涼会を開催します。暑い日本の夏。都会の暑さを逃れて、高尾名物の「精進料理」で暑さ負けを解消しませんか。

薬王院の大山隆玄貫主は、南高の卒業生です。少し早めに集合し、山頂に登る企画もありますので、元気な方は頂上に登ってから薬王院に向かいます。

7月にあかね会ホームページに募集要綱を掲載しますので、参加ご希望の方は、下記にご連絡ください。

集合はケーブル清滝駅、会費は5，000円を予定

⇒連絡先：田中ミホ
【電話】042-646-1155 【メール】event@akanekai.org

母校文化祭(9月6・7日)に、作品出展を募集

母校100周年を契機に、文化祭『南魂祭』に参加し、今年で10回目を迎えます。在校生や保護者、一般の来訪者で賑わいます。日頃、書道、絵画、写真、陶芸、その他の趣味で作品を制作されている方は、奮って出品をお願いします。卒業生の著作物（本・画集等）も展示します。得意芸のある方はアトラクションでご参加ください。また、出展準備と後片付けのボランティアも募集します。

8月に作品出展等の募集要項をホームページに掲載しますので、作品の出展をご希望の方、展示会場でお手伝いできる方は、下記にご連絡ください。

⇒連絡先：田中ミホ
【電話】042-646-1155

「先輩に学ぶ」の講師募集

生徒の進路指導に役立つようにと、「先輩に学ぶ」の支援を始めて9年。学校も「早い時期に先輩の話を」との要望で、3月に行われていたものが、一昨年から7～10月の平日開催になりました。対象は中等5年生（高校2年）です。 毎年数人の講師にお願いする予定です。「我こそは」と思う方や、講師の適任者をご推薦いただける方は随時ご連絡ください。

⇒連絡先：井上 務
【電話】090-1839-0363 【メール】jigyo@akanekai.org

南高の思い出に… 100周年記念誌『湧水万古』

南高の閉校まで、1年を切りました。6年前の100周年に永久保存版として刊行された記念誌『湧水万古』。母校100年の歴史を知る上でも貴重な写真を網羅した456頁のハードカバーの記念誌です。希望者に3,000円で頒布しますので、下記にご連絡ください。

⇒連絡先：田中ミホ
【電 話】042-646-1155
【メール】kinenshi@akanekai.org

広報誌はホームページでもご覧になれます。

広報「みなみたま」は、あかね会ホームページ『南多摩コミュニティ』から、過去の分も含め閲覧できます。

http://www.akanekai.org

また、広報誌を希望されない会員の方は、お手数ですがはがきかメールで右記にご連絡ください。

広報誌が不要の方はご連絡ください。

【記載事項】 ①「広報不要」と記載 ②氏名 ③卒業年・組
④連絡先（住所・電話・メールアドレス等）
【郵 便】〒192-8562 東京都八王子市明神町 4-20-1
南多摩高校内あかね会「広報誌発送」宛
【メール】meibo@akanekai.org

有機バナナのパイオニア ナチュラルヒーロー®

品質 Quality　安心 Relief

株式会社 ヒロインターナショナル
代表取締役 神藤宏昭（昭和35年卒）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-16-5（マニュライフプレイス渋谷3F）
電話：03-3406-1091 FAX：03-3406-1203 http://www.naturalhero.co.jp

学校法人 片柳学園
東京工科大学
【昭和35年卒】
学長 軽部征夫　理事 黒須隆一

＜八王子キャンパス＞
〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1
TEL.042-637-2111（代）

＜蒲田キャンパス＞
〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22
TEL.03-6424-2111（代）

www.teu.ac.jp
併設校：日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校

南多摩高校　平成３年 卒業　演歌歌手
「よっしゃよっしゃ！ソーランおんな節」
歌手業を軸に観光旅館業とカラオケ喫茶を始めました
富士吉田市 富士山リゾート＆ビジネスホテル
ホテルベル鐘山（かねやま）
八王子北口 徒歩5分
カラオケ スナック プラネット
昼カラ 12：00～17：00　夜スナック 19：00～25：00
（有）オフィスめぐみ・伊達めぐみ後援会事務局
八王子市中野上町 5-14-1　TEL 042-622-9932
http://date-megumi.net/
伊達めぐみ
日本クラウン

SHINDO ORTHODONTIC CLINIC
新藤矯正歯科クリニック
院長　新藤 勝之
〒192-0081 東京都八王子市横山町 23－2
TEL：042-646-3686
http://www.shindo-ortho.com

不動産業（賃貸マンション・貸倉庫）
石田倉庫のアートな2日間
石田産業有限会社
代表取締役社長　石田 高章
常務取締役　石田 菊江（昭和27年卒）
〒190-0013 東京都立川市富士見町 2-32-27 石田産業ビル 2F
TEL：042-522-2406　FAX；：042-525-0483

心のふるさと
祈りのお山
高尾山
薬王院 山主　大山 隆玄（昭和28年卒）
http://www.takaosan.or.jp

有限会社 保寿産業
代表取締役 小川 禎子
（旧姓岸 昭和 31 年卒）
〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32
TEL:042-526-2646　FAX:042-529-7500

伊藤税務会計事務所
税理士 伊藤 仁教
伊藤 幸子（昭和32年卒）
〒192-0045 八王子市大和田町3－6－21
TEL：(042)642-2719　FAX：(042)642-5034

ダンスウェア・シューズ
（ソシアルダンス・フォークダンス・バレエ）
CHAT チャット八王子
店 長　粕谷　和子（昭和35年卒）
〒192-0085 八王子市中町 12-8
TEL・FAX：042-626-1255
〔定休日：水・日曜　営業時間：12:00～17:00〕

NPO法人
八王子・台湾友好交流協会
理事長　黒　須　隆　一
（昭和35年卒）
〒192-0046 八王子市明神町4-1-2ストーク八王子205号
TEL・FAX 042-644-5580
携帯 090-6150-4965

一級建築士事務所
株式会社 浜中企画
浜中 賢司（昭和44年卒）
〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話：042(654)4325　FAX:042(654)6128
mail：hamanaka@tokyo.email.ne.jp

NAKANO
学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園
なかの幼稚園　そこは
子どもの世界です。
〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL：042-622-3001・FAX：042-624-3103
http://www.nakano-kd.ed.jp/
理事長 中村 健（昭和 46 年卒）

Sankyosha 刷新ing
お任せ下さい！印刷のすべて。
取締役副社長　野口　富巳子（昭和35年卒）
有限会社 三共社
〒192-0041 東京都八王子市中野上町 2-29-1
TEL.(042) 625-8325　FAX.(042) 625-8369
http://www.san-p.co.jp

お住まいに健康と団欒をお届けする
ミャンマーチークフローリングと周辺造作材専門店
ミャンマーチーク販売株式会社
代表取締役　臼井　成美
臼井　実千恵（旧姓岡村　昭和46年卒）
〒160-0023　東京都新宿区西新宿3-8-4　BABAビル
TEL : 03-5333-3055　FAX : 03-5333-3077
http://www.myanmar.co.jp

医療法人社団　大島会
大島耳鼻咽喉科クリニック
院長　大島　清史／大島(新藤)　富子(昭和 25 年卒)
〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9
TEL : 042-642-8012
http : //www.oshima-ent.com/

皮膚科・アレルギー科
城山右田医院
院長　村田　恭子／右田　貞子(昭和 26 年卒)
〒252-0105 神奈川県相模原市緑区久保沢 1-2-7
TEL:042-782-2120

家庭フランス料理とお菓子教室
クッキングサロン　フェルミエール
主 宰　糠信　和代
〒192-0046 八王子市明神町４－２－９－８０１
電 話:042-646-1469　Fax::042-646-1469
サロンでフランスコース料理とワインを楽しんでいただきます

医療法人社団 真歯会
常盤矯正歯科医院
理事長:常盤　肇　理事:常盤　正臣(昭和 31 年卒)
〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-22 安藤ビル 5F
電話:03-5363-1182　FAX:03-5363-1173
フリーダイヤル:0120-755-182
http://www.tokiwaoc.com

医療法人社団　三真会
勝 田 医 院
泌尿器科・内科・外科
院長　勝田真行／勝田三枝子(旧姓石森　昭和33年卒)
〒193-0803 八王子市楢原町 556―1
電話:042(625)2727　FAX : 042(625)2700
〔休診日:日・祝、木・土の午後〕

病院、施設の給食品専門問屋
増田屋
株式会社 増田禎司商店
代表取締役　増田太郎／増田敦子(昭和34年卒)
〒193-0801 八王子市川口町 3726-2
TEL:042-654-2222　FAX:042-654-5049
http://www.masudaya.1965.com

同窓生の皆さん、お気軽にご相談ください
弁護士 森　保 彦(昭和38年卒)
森田・森法律事務所
〒160-0004 東京都新宿区四谷2-8
コーポ・クローバー駒井 504 号
TEL:03-3355-4021　FAX:03-3355-4022

TKC. KFS 推進事務所
税理士法人 西東京会計
代表社員・税理士　加藤　晃(昭和38年卒)
事務所:〒192-0032 八王子市石川町 733-4
TEL:042-644-1771　FAX:042-645-7372
http://www.tkcnf.com/ntk/

らあめん花月
フードプラネット株式会社
代表取締役　大野　宏行（昭和56年卒）
〒197-0023 東京都福生市志茂 15-3　TEL・FAX:042-552-2538
福 生 店　042-552-2538　久保稲荷店　042-966-8219
東大和店　042-564-2630　羽 村 店　042-579-2583
昭島モリタウン店　042-546-1102

法あるところに救済あり！
司法書士・行政書士　空衣(そらい)事務所
みなさまとお会いしたいと思っています
代表　入沢　修自(平成5年卒)
〒206-0011 東京都多摩市関戸4－23－1 関戸ビル301
電話:042-389-5570　Fax:042-389-0755
http://www.sorai-law.com

5月18日に「平成26年度 あかね会総会」を開催します

同窓会「あかね会」は、毎年5月の第3日曜日に総会を開催しています。

南多摩高校は、今年度の3年生を最後に閉校となり、来年度からは平成22年度に併設された南多摩中等教育学校になりますが、中等教育学校の在校生たちが第四高等女学校から南多摩高校へ受け継がれてきた伝統を引き継ぎ、さらに発展させていってくれるものと確信しています。

卒業生の皆さまも、新たな一歩をあゆみ始めた母校を見守り、ご支援いただきますようお願いします。

同窓会の総会は、現在の母校の様子を知る機会でもあり、また、共に学んだ仲間との再会、年齢を隔てた先輩や後輩との新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合ってご参加ください。

昨年のあかね会総会の様子

平成26年度 あかね会総会

【日時】：平成26年5月18日（日）　午前11時～午後3時
【場所】：ホテル「ザ・ビー 八王子」（旧八王子プラザホテル）
京王八王子駅前　☎ 042-646-0111
【懇親会費】：5,000 円（当日徴収）

プログラム

総　会：午前 11 時～12 時
議事：平成 25 年度事業報告・決算
平成 26 年度事業計画・予算
講演会：正午～午後 1 時
講師：菱山　剛秀（S44年卒）「地図で見る八王子」
懇親会：午後 1 時～午後 3 時
昼食、懇談、新会員の歓迎・紹介など

※　会場の都合で事前に参加の申し込みをお願いします。

■申込・問合せ先

電話：042-625-8325（野口　冨巳子）
042-646-1155（田中　ミホ）
FAX：042-646-2255（田中　ミホ）
メール：event@akanekai.org
郵便：〒192-0032 八王子市石川町761
（田中　ミホ　宛）

■申込方法

・上記申込先に、①氏名、②卒業年・組、③連絡先（住所・電話番号・メール等）をご連絡下さい。
・事務局から、折り返し案内のはがきを送付します。

「広報協力金」の募集

あかね会広報誌「みなみたま」は、創立100周年記念基金及び会費を使用して消息の分かっている会員約19，000人にお送りしています。

発行に際しては、多額の送料が必要になりますので、第1号発行時から、会員の皆様に協力金の協賛をお願いして参りました。これまでに多くの会員のご協力をいただき、今号まで発行を継続できていることを改めて感謝申し上げます。

いずれは、ホームページに掲載するのみにさせていただきたいと考えておりますが、ホームページでご覧になれない方もいらっしゃいますので、もう暫く、広報誌としてお届けさせていただくことに致します。

ついては、昨年までと同様一口千円の協力金を募集しますので、ご協力いただける場合は、同封の振り込み用紙をご利用いただき、ご感想やご意見も合わせてお送りください。

住所変更などは、あかね会までご一報を

毎号、広報の発送で多数の戻り便が発生しています。

会員の皆さまに住所変更、氏名変更などがありましたら、あかね会までご連絡ください。

【メール】meibo@akanekai.org
【郵　便】〒192-8562 八王子市明神町 4-20-1
南多摩高校内　あかね会名簿担当宛
連絡先：野口富巳子 【電話】 042-625-8325

編集後記

母校の創立100周年を契機に同窓会の活動の一環として、広報を同窓会の会員である卒業生全員に届け始め、5年目を迎えました。

母校は、100年を超える長い歴史の中で、府立第四高女から男女共学の南多摩高校に変わり、4年前から新たに設立された南多摩中等教育学校と併設されてきましたが、南多摩高校は今年度を最後に閉校し、いよいよ南多摩中等教育学校に生まれ変わります。南多摩高校最後の後輩たちは、新校移行に伴い学級数が半減したにもかかわらず、この4年間にさまざまな分野で活躍し、輝かしい伝統を「南多摩」の名とともに南多摩中等教育学校の後輩に引き継いでくれています。南多摩中等教育学校の生徒たちも、そうした先輩の姿に憧れ、「南多摩」の伝統をしっかり継承してくれています。

同窓会は、来年度から卒業生の出る南多摩中等教育学校と一体化し、南多摩中等教育学校を引き続き支援して参ります。

今後も本広報誌が第四高女、南多摩高校、南多摩中等教育学校の卒業生と在校生の架け橋となることを願っています。

（菱山）